山崎 哲也 (ヤマサキ テツヤ)

1956年12月15日 山口県生

1980年3月東京大学法学部卒業

1980年4月~2015年6月 宇部興産株式会社

2015年7月~2017年3月 宇部丸善ポリエチレン (株)

2017年4月~2019年3月 旧宇部MC過酸化水素(株)

2020年1月~2023年5月 (株)アイコー



宇部興産の沿革

宇部地域では、元々江戸時代の頃より、石炭を採掘していた。

明治に入り、宇部式匿名組合を結成、資本を集約して炭鉱を事業化。

1897年 沖の山炭鉱設立

1914年 宇部新川鉄工所設立

1924年 宇部セメント製造設立

1933年 宇部窒素工業設立

1942年 国策により宇部興産(株)設立

(以降 出典「宇部興産創業百年史」平成10年6月刊)

どうして沖の山炭鉱は、化学会社になりえたのか?

1930年 南満州鉄道よりウーデ社のアンモニア特許を委譲したいと意向が伝えられた。

1931年 アンモニア製造ファウザー法の特許を大日本人造肥料(現日産化学)より分譲の意向がもたらされた。

1933年 日本において独占的実施権を持つ大日本人造肥料の承認のもと、沖の山炭鉱がモンテカチーニ社より直接移譲を受けた。

何故? 日産コンツェルンの総裁 鮎川義介(長州閥)

また、これにより300~400気圧の高圧ガスの取扱い技術を習得。

宇部窒素工業の硫安製造

炭)利用

水素ガス コッパース社 竪型式乾溜炉より宇部炭(低品位非粘結

副生品

タール 芳香族化合物が少なかった

再蒸留の上、粗軽油、中油、含蝋油、ピッチに分けた。

粗軽油⇒ クレゾール、中油

中油 ⇒ クレゾール、クレオソート

含蝋油⇒ クレオソート油、パラフィン

研究所では、フェノール等の芳香族の研究を行っていた。

住友別子鉱山製のプラント 一部外部調達 硫酸

1937年 大日本肥料製造から技術導入 アンモニア=>硝酸製造

戦後の展開

- ・傾斜生産方式 ⇒ 炭鉱、セメント、肥料(硫安)に 資金、資材投入 = (旧帝大系)人材が多く集まった。
- ・一酸化炭素から蓚酸製造(C1化学の基礎)
- ・カプロラクタム製造技術導入(1954年)

日本レーヨンがインベンタ社から技術導入 三和銀行が、化学企業に製造を委ねてはと仲介 宇部興産が生産することに

技術は「共有」、ロイヤリティは宇部も負担。

ナイロン

ナイロン 6 6 アジピン酸とヘキサメチレンジアミンの重合 デュポン発明

ナイロン6 カプロラクタムの重合 IGファルベンの発明 => スイス インベンタ社 (ロイナ ベルケが継承)

(参考) ウレタン結合 -OOCNH-R-NHCOO-

宇部興産、戦後の展開(その2)

- ・石油化学工業への進出 低密度ポリエチレン (アンモニアの高圧ガス技術) ポリプロピレン ポリブタジエン ABS樹脂 ・カプロラクタム DSM法の導入 (パイロットプラントを2000倍の実プラント化) ・化成品事業の拡大 二価フェノール (カテコール、ハイドロキノン、バニリン) カプロラクタム派生品 1,6ヘキサンジオール (C6の直鎖ジオール)
- ・医薬品受託生産

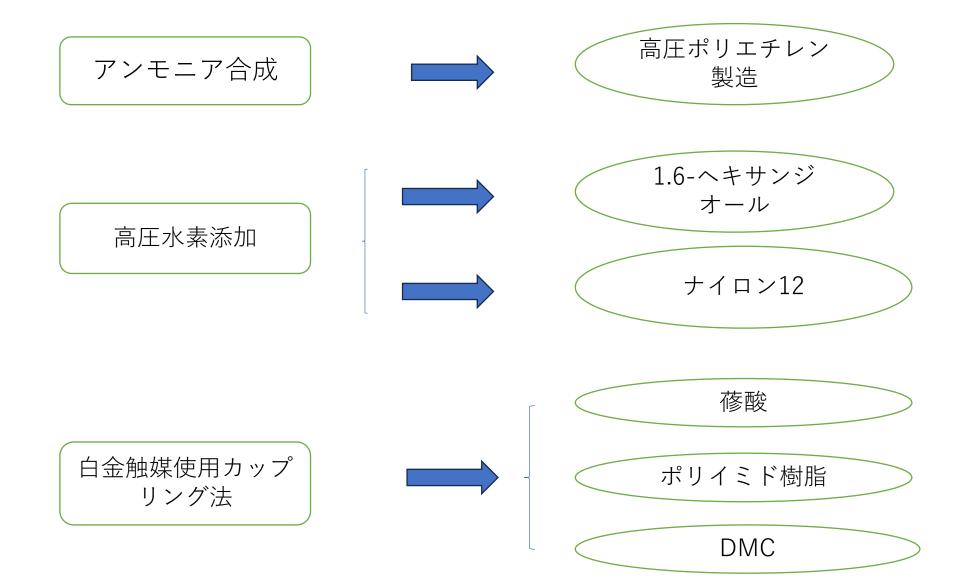
MEKオキシム

宇部興産戦後の展開(その3)

- ・ポリイミド樹脂 (デュポン社とは少し異なる)
- ・カップリング反応 (パラジウム触媒を使用したカップリング反応に亜硝酸エステルを使用)

DMC(ジメチルカーボネート) => リチウム二次電池電解液

UBEの技術



山崎哲也のやってきたこと

```
1980年~1988年 労務畑
1988年~1991年 ラクタム営業部 (アジア向け輸出)
1991年~1995年 社長秘書
1995年~2005年 ファインケミカル営業部
      (1,6-ヘキサンジオールプラントをスペインに建設)
2005年~2010年 千葉石油化学工場総務部長
2010年~2015年 工業薬品ビジネスユニット ユニット長
      アンモニア製造技術、ペトロコークス買付け
      日本液炭と液化炭酸プラント建設
2015年~2017年 宇部丸善ポリエチレン(株)社長
2017年~2019年 宇部MC過酸化水素(株)社長
```

山口の美味しいお酒とおつまみ

商標の問題があるので名前 だけ

- ・獺祭(岩国市)
- ・貴(宇部市)
- ・東洋美人(萩市)
- ・雁木(岩国市)
- ・金雀(岩国市)
- ・天美(下関市)





完